

「小さな意味」から「大きな意味」へ

図書館長 坂野明子

金子みすゞの有名な詩に「夜がくるまでしずんでる、昼のお星はめにみえぬ。見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ」という一節があります。

今日、ニュース番組でトランプ・リスクの話をしているのを耳にして、ふいにこの一節を思い出しました。

トランプ大統領という人は直に目に入るものだけに注意を払う人です。メキシコ国境に壁を作ることに固執するのも、中国との貿易戦争を厭わないのも、シリアからアメリカ軍を撤退させたいと考えるのも、目に見える自国への被害を重視し、明らかな見返りが無いことに苛立ってしまうからだと思います。

でも、国と国の関係にしても、人と人との関係にしても実は数えきれないくらいの「目に見えないもの」から構成されています。国と国の関係で言えば、連綿と続いてきた文化交流があります。今、私がこうして日本語の文章をパソコンに向かって書いているのも、中国が漢字という素晴らしい文字文化を作ってくれたおかげであり、もちろん、コンピュータを作り出した欧米の先端技術のおかげでもあります。それを忘れて、今見えるものだけから物事を考えるのは些か問題ではないでしょうか。

授業でこの詩を扱って学生さん達に「目に見えないけれどもあるものを考えてみてください」と問いかけることがあるのですが、私が期待する答えの一つは「愛や優しさ」です。「愛」を贈り物として見える形にすることはありますが、それはむしろ例外的な瞬間で、日々感じている家族への気持ちに始まり、別の文化に憧れる気持ちや世界平和を願う思いにいたるまで、人と人との関係においても「目には見えなくても確かにあるもの」がその根底にあるのです。そしてトランプ大統領にはこれが見えないのではと思ったのです。

スマートフォンが浸透し、SNSのネットワークが張り巡らされている今日、私たちは圧倒的な量の情報の受け取り手になっています。なにか少しでも知らないこと、疑問に思うことを瞬時に調べることができますし、世界で起きている事件についての「さまざまな解説」もネット上に溢れています。ただ、受け取る側に金子みすゞ的な、ものの背後まで考えたり感じたりする精神の力が不足している場合、それらの情報は「小さな意味」、この文章の文脈で言えば「目に見える意味」、「表層的な意味」を与えてくれるだけです。全体を把握する「大きな意味」、「目に見えないけれどもあるもの」を含みこむ「本質的な意味」は私たちからすりぬけていってしまいます。

無論、それだっていいではないか、という議論も可能です。でも、せっかく大学に入り、古今東西の知の蓄積に触れ、そのことによってこれからの社会を担う力を培う機会に恵まれている皆さんなのですから、ぜひ、「大きな意味」に近づく努力

をして欲しいと思います。そして、皆さんの努力の一助になるのは、「大きな意味」を求めた先人達の闘いを今に伝える遺産、すなわち書籍です。膨大な量の書籍（電子媒体もありますよ！）が専修大学図書館にはあって、皆さんが手に取ってくれるのを待っています。是非一步踏み出して、見えないものを見る力を養ってみてください。

